

CDPウォーターの 取り組みと今後

2026年2月9日

一般社団法人 CDP Worldwide-Japan

ディスクロージャー APAC ヘッド

原田 卓哉



アジェンダ

1. CDPとは
2. CDPのウォーター質問とその背景
3. 今後のCDP水セキュリティ質問書の方向性



CDPとは

CDPは、企業や自治体向けのグローバル規模の環境情報開示システムを運営する国際的な非営利団体です。



640+

資産総額127兆米ドルに相当する640以上の署名金融機関が情報開示を要請



270+

購買力6.4兆ドルに相当する270社以上のバイヤーが情報開示を要請



22,100+

世界の市場価値の半数を占める22,100社以上の企業が情報開示



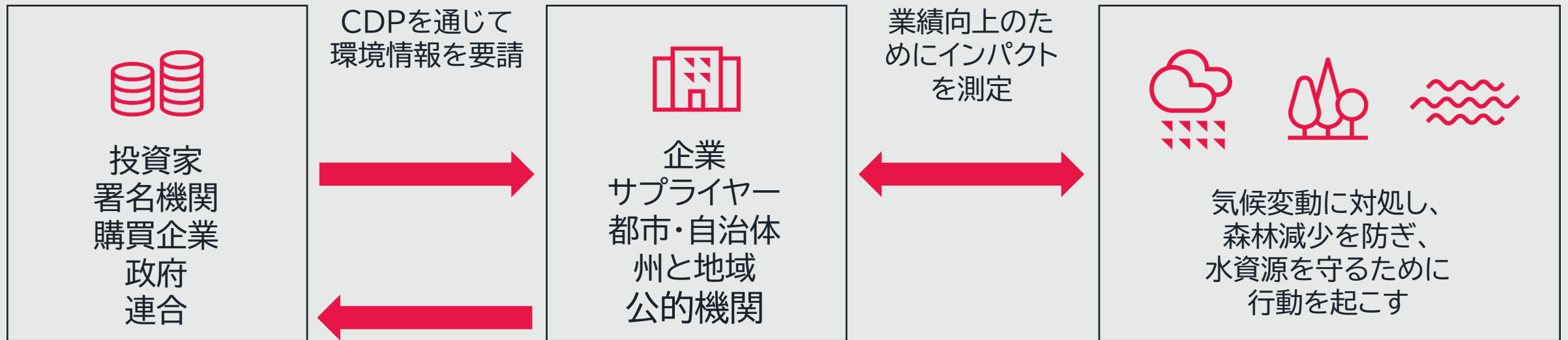
≈1,000

自治体もCDPを通じて情報開示



CDPシステム

署名機関や購買企業は CDPの情報に基づいた意思決定を行い、優れた環境に関するパフォーマンスを挙げた企業を評価し、行動を促します



環境へのインパクト、
リスク、機会、投資、
戦略などに関する
データを提供

アース ポジティブ



CDPデータを活用した金融商品事例(グローバル)



KIABI

BNPパリバは、CDPのサプライチェーン・プログラムに参加し、情報開示を行うKIABIのサプライヤーにファイナンス・インセンティブを提供

BBVA



BBVAは、Iberdrolaに対し、CDPの水セキュリティスコアに基づいて25億ドルの融資を実行



Walmart



サプライヤーはCDPのデータを使って、Walmartのプロジェクト・ギガトンに報告し、調達金利の改善と早期決済を実現



SMBCはISFに対し、CDPスコアに直接紐づくKPIを用いた、サステナビリティ・リンクローンを実行



金融機関による水関連のCDPデータ活用事例 (NBIM)

- 世界最大級の政府系ファンドの運用会社として、**ノルウェーバンク・インベストメント・マネジメント(NBIM)**は、汚染と持続不可能な水利用がもたらすビジネス・リスクを熟知。
- 2009年に、企業データの利用可能性を向上させることに関心を持ち、**CDPウォーター情報開示プログラムの開発を支援**。
- 現在では、CDPを通じて入手可能な強力なデータ基盤により、企業の情報開示データを活用して長期的リターンの向上を図っている。
- 水リスクのエクスポージャー、管理、パフォーマンスを評価。水関連で高いリスクを抱える事業やバリューチェーンを持つ企業に焦点を当てている。
- NBIMの水管理戦略の詳細および企業への期待は Water management Expectations of companies を参照。

NBIMの水管理戦略によると、、、


企業は、集団的な河川流域管理の取り組みに参加することを検討すべきである。

企業の報告に、水リスクは地域固有であり、しばしば資産固有であることを反映すべき。



水に関するリスクは財務リスクです。

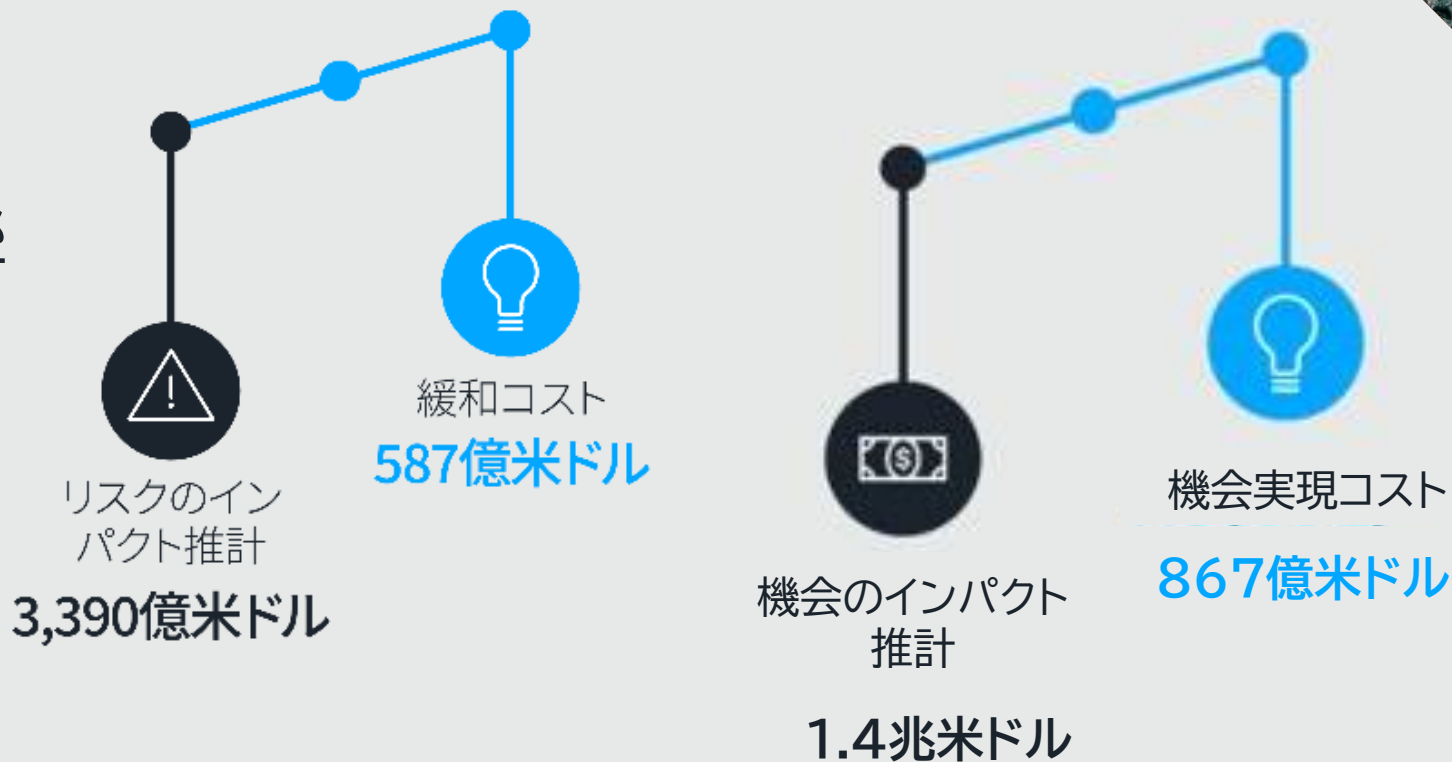
水の供給は最も一般的なビジネスの依存先であり、サプライチェーンは重大なリスクに直面しています。

 ウォーター

異常気象によりEU農業はすでに毎年**280億ユーロ**の損失。

水リスクが生む財務影響

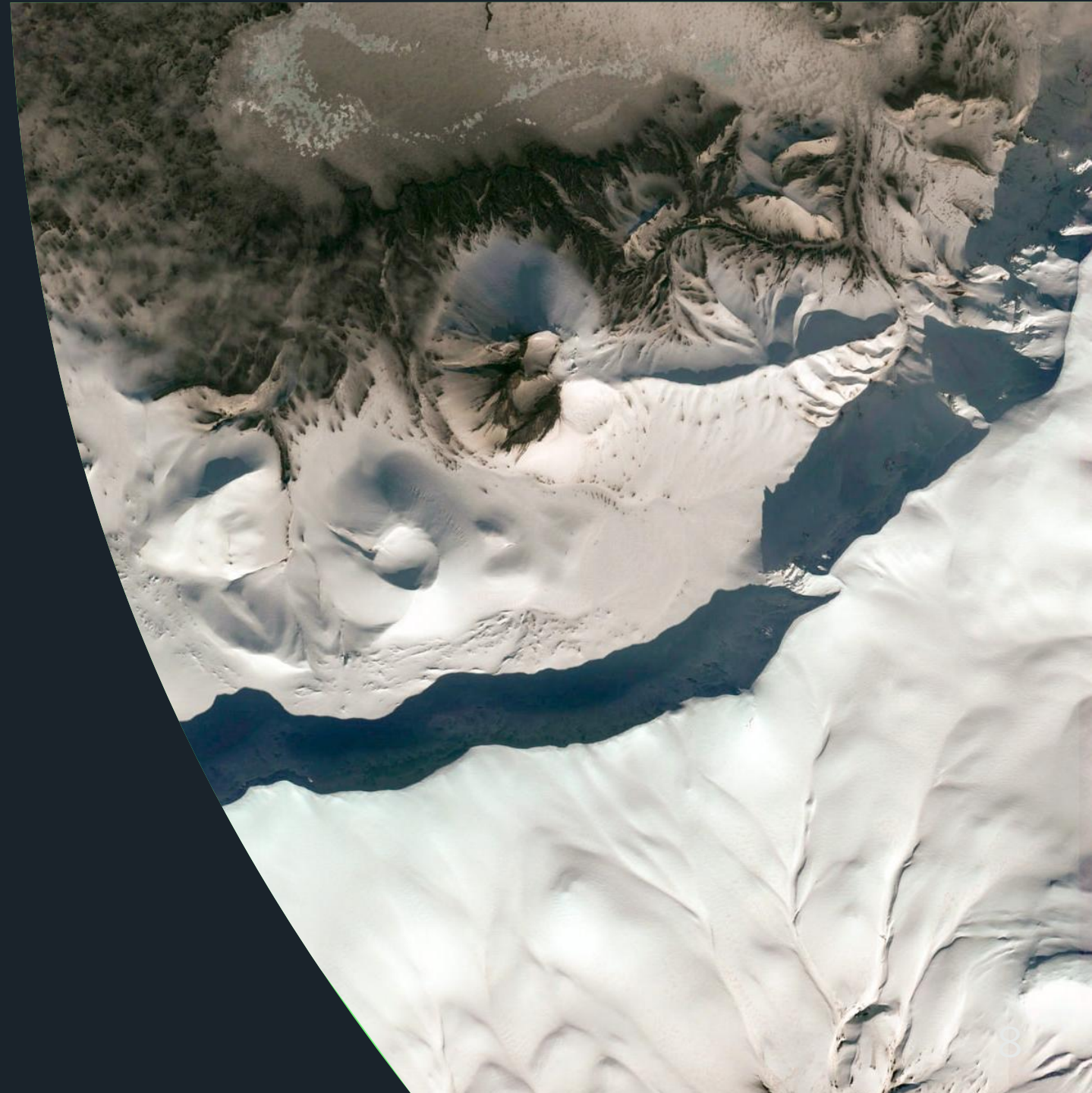
台湾:水不足により半導体工場が操業停止、企業は水をトラック輸送する事態に。



財務データはCDPを通じた2024年の企業開示に基づいています。

報告企業数: 1,400

2. CDPのウォーター 質問とその背景



CDPで初期から意識されている流域ベースの水管理目標

- 企業活動には、信頼できる水資源の確保が不可欠である
- 水課題は本質的にローカルな課題であり、流域ごとに固有の特性を持つ水へのアクセスに関するリスクは、事業拠点単位ではなく流域(キャッチメント)単位で顕在化する



水目標は流域レベルの事業環境を反映することで、① リスクを低減し、② 新たな機会を創出し、③ 水の安全保障(水セキュリティ)と持続可能性の向上に貢献する必要がある

アライアンス・フォー・ウォーター・スチュワードシップ ワードシップ (AWS)



AWSは、企業、NGO、政府関係者が協働する
国際ネットワーク

- ・世界の淡水資源を守ることを目的に、
AWS規格・認証制度を通じて、優れたウォーター・スチュワードシップの取り組みを推進
- ・CDP の質問書における ウォーター関連
データポイントを策定する際に考慮された参
照フレームワークの一つ

350⁺
AWS 認証拠点数

3月22
日
世界水の日
AWSバージョン3.0
公開

サプライチェーンにおける持続
不可能な
ウォーターフットプリントに対処
するための
5つの目標にコミットします



1. 水の汚染ゼロ
2. 持続可能な取水
3. 生態系の保護
4. WASHへのアクセス
5. 気候影響へのレジリエンス

フェアウォーターフットプリント (Fair Water Footprints = FWF)



- CDP は、政策立案者、民間セクター、市民社会を結集し、責任ある水管理を世界的なビジネス規範として推進する「フェア ウォーターフットプリント」イニシアチブの主要パートナー。
- 企業は、**公正な水フットプリントのためのグラスゴー宣言**に署名することでこの取り組みに参加可能。
- 署名者は、自らが管理し影響力を持つウォーターフットプリントが2030年までに持続可能で、回復力があり、公平なものとなるよう保証するコミットメントを行う。
- 特に、**日本のウォーターフットプリントの70%以上は他国の水資源に依存**しているとの報告あり ([Towards-Fair-Water-Footprints -Global-WF-analysis FINAL.pdf](#))。

サプライチェーンにおける水リスクは大幅に過小評価されている可能性がある。

40%

企業がサプライチェーンのリスクを評価している(CDP、2023年)。

7倍

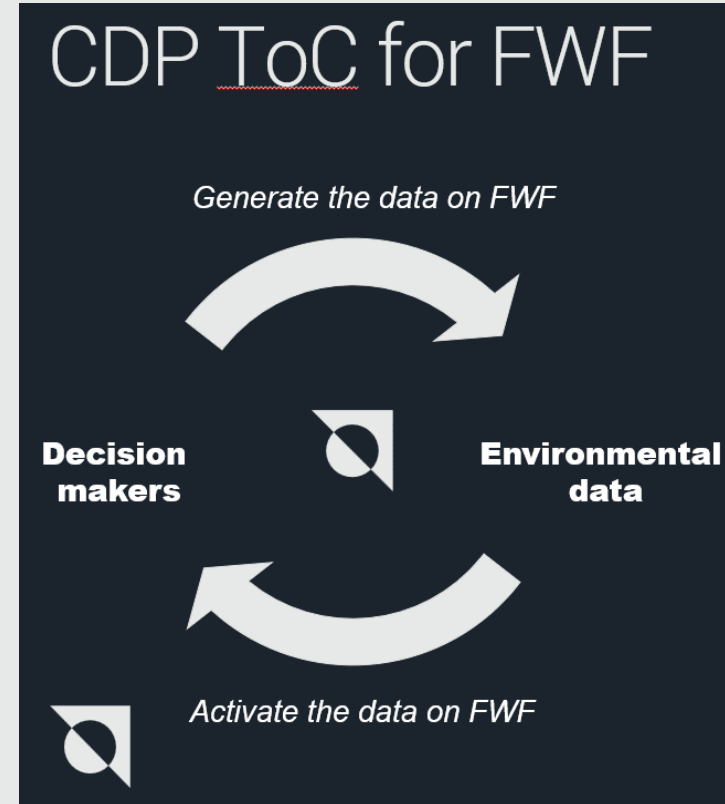
サプライヤーをリスク評価に組み込む企業は、サプライチェーンのリスクを報告する可能性が7倍に上昇。

(CDP、2023年)。



FWF: CDPの役割と貢献

- 開示データを用いてFWFの原則に対する進捗状況を追跡
- 高リスクのサプライチェーンや、公正な水フットプリントが特に重要となるホットスポットを特定
- CDPの水関連KPIに連動したサプライチェーンファイナンス商品など、革新的な金融メカニズムの設計に役立つインサイトを生み出す
- 企業および投資家の行動を支援し、FWFの原則がビジネス戦略、報告、資本配分に統合されるようにする



完全版質問書の構成(2025年)

完全版質問書は、最新の科学や、グローバルな情報開示の基準や枠組みに整合しています。
複数の環境課題を統合した「統合モジュール」と、環境課題別のモジュールから成り立っています。



CDPウォーター質問書と重みづけ (一般セクター、2025年)

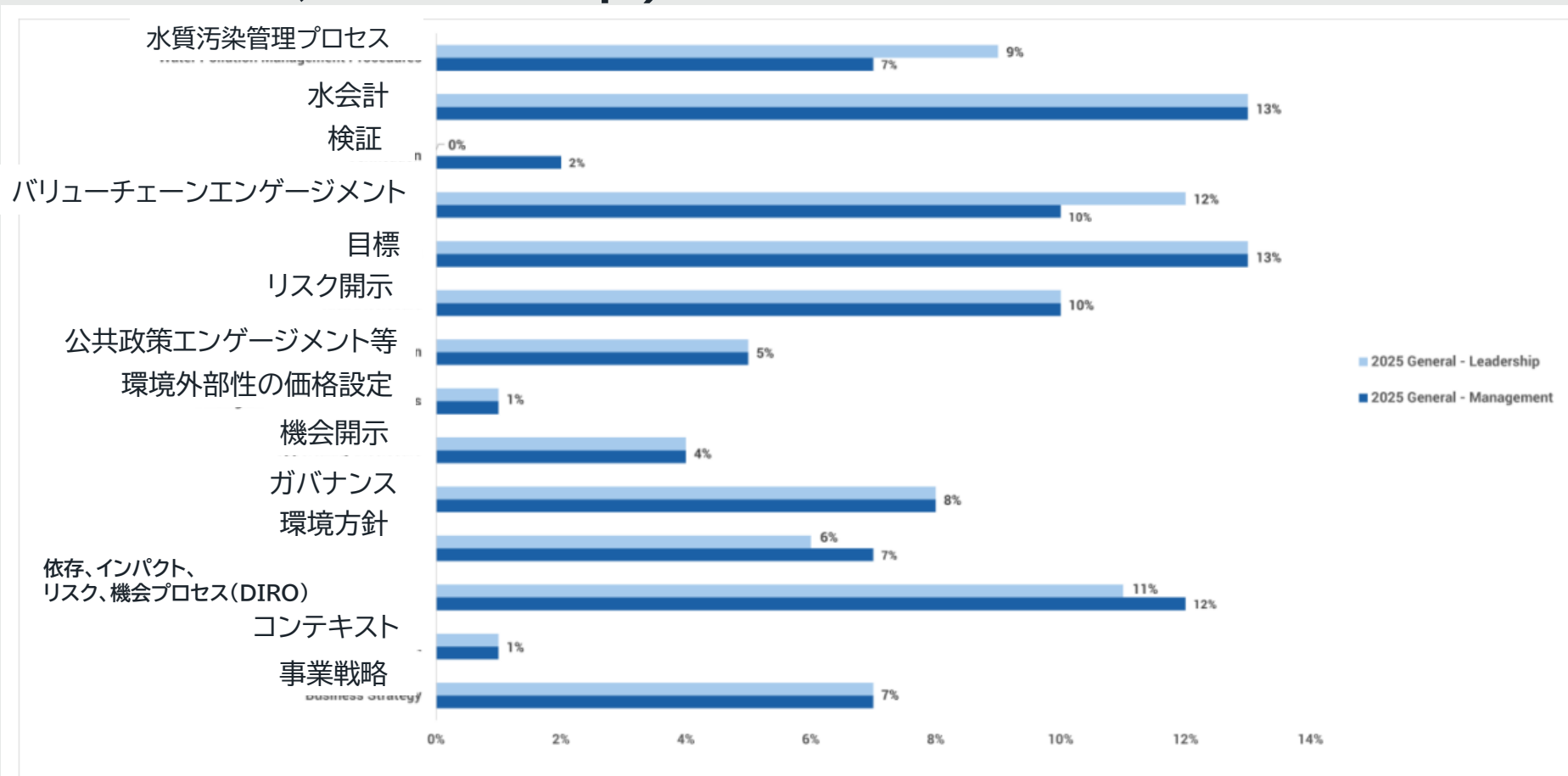
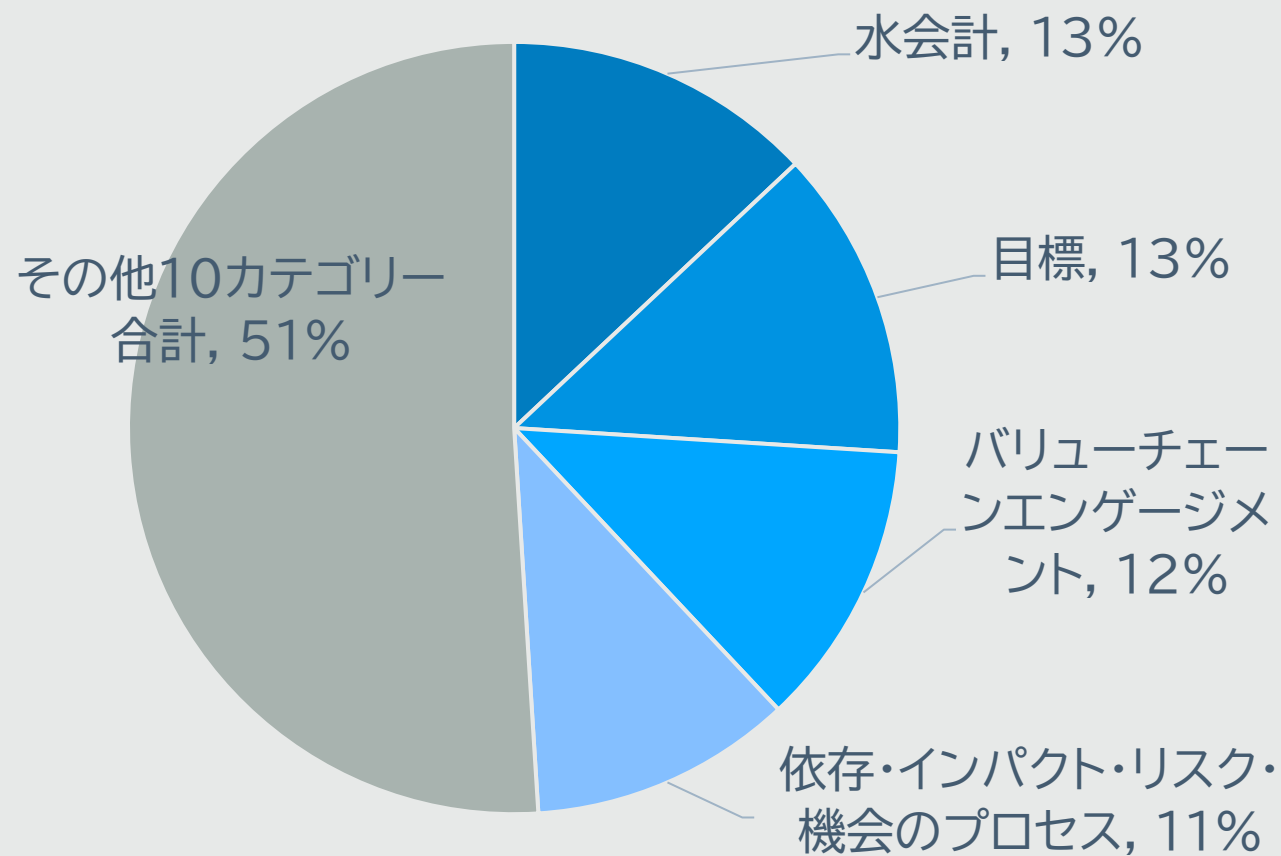


Figure 1 – The bar chart above shows the % weighting applied to each of the scoring categories at Management and Leadership levels for the 2025 full corporate scoring methodology for water security – general.



CDPウォーター質問書と重みづけ

リーダーシップレベルのカテゴリー別ウェイト



CDP Scoring Category Mapping 2025 - Water Security.xlsx



焦点:

施設レベルの水の会計



9.3 直接操業およびバリューチェーン上流において、水に関連する重大な依存、インパクト、リスク、機会を特定した施設の数はいくつですか。

9.3.1 9.3項で参照されている各施設について、座標、水の会計データ、および直前の報告年度との比較を提供してください。

9.3.2 質問9.3.1で挙げた貴組織が直接操業している施設について、第三者検証を受けている水会計データの比率をお答えください。

完全版	質問9.3
-----	-------



水に関する実質的な依存関係、影響、リスクおよび／または機会を持つ施設に限る

データポイントには以下が含まれます:

- 国／地域および河川流域
- バリューチェーンの段階
- 水の会計データ(取水量、放流量、消費量)
 - 関連性がある場合、Tier 1のサプライヤー施設のみ報告が必要です

※AWS認定がある場合はこちらで報告可能

参考資料:

CDPテクニカルノート:水会計



焦点:

水関連の目標



9.15 貴組織には水関連の目標がありますか。

9.15.1 水質汚染、取水量、WASH、その他の水関連カテゴリと関連する目標があるか否かを教えてください。

9.15.2 貴組織の水関連の目標およびそれに対する進捗状況を具体的にお答えください。

9.15.3 貴組織に水関連の定量的目標がない理由と、今後策定する予定があるものがあればその内容をお答えください。

完全版	質問 9.15
-----	------------



ベストプラクティス:企業が、水質汚染、水の取水量、WASHサービスへのアクセスを含む自社の事業運営の重要な側面に関する、期限が設定され追跡可能な定量的な水関連目標を持っていること。

目標の詳細には次のものが含まれます:

- 対象範囲(直接操業、サプライヤー、施設)
- 目標のカテゴリおよび指標
- 基準年に対する達成された目標の割合
- 目標に連動または支持される国際的な環境条約



Aリスト必須要件(=ベストプラクティス)

※詳細は必須要件の資料を確認

ウォーター	2025年要件
報告範囲	重大な除外がない
水のモニタリング	拠点/施設/事業所の75%以上が、以下の事柄について定期的にモニタリング： 取水量 - 総量、排水量 - 総量、排水の水質 - 標準的な排水パラメータによる すべての労働者に対する、十分に機能し、安全に管理された WASH サービスの提供
水ストレスのある地域からの取水量	前年度と比較して少ない、または安定している
サプライヤー エンゲージメント	水に関する問題について、サプライチェーンとの協働を報告する
水リスクの特定、評価、管理	水リスクの特定、評価、管理を実施している
取締役会の監督	水関連課題の説明責任、取締役会の能力
水の方針	公開している水の方針があり、特定のコミットメントを含んでいる
水の目標	取水/汚染/WASHサービスのうち、2種類以上の目標を設定



2025年のTNFD整合性

□ 完全な整合性

■ おおむね整合している

■ 部分的な整合性

□ ほとんどまたは全く整合性がない

TNFD推奨開示事項

ガバナンス

自然関連の依存、インパクト、リスクと機会の組織によるガバナンスの開示。

戦略

自然関連の依存、インパクト、リスクと機会が、組織のビジネスモデル、戦略、財務計画に与えるインパクトについて、そのような情報が重要である場合は開示する。

リスクとインパクトの管理

組織が自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を特定し、評価し、優先順位付けし、監視するために使用しているプロセスを説明する。

測定指標とターゲット

マテリアルな自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を評価し、管理するために使用している測定指標とターゲットを開示する。

推奨される開示事項

A. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会に関する取締役会の監督について説明する。

B. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会の評価と管理における経営者の役割について説明する。

C. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会に対する組織の評価と対応において、先住民、地域社会、影響を受けるステークホルダー、その他のステークホルダーに関する組織の人権方針とエンゲージメント活動、および取締役会と経営陣による監督について説明する。

推奨される開示事項

A. 組織が特定した自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を短期、中期、長期ごとに説明する。

B. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会が、組織のビジネスモデル、バリューチェーン、戦略、財務計画に与えたインパクト、および移行計画や分析について説明する。

C. 自然関連のリスクと機会に対する組織の戦略のレジリエンスについて、さまざまなシナリオを考慮して説明する。

D. 組織の直接操業において、および可能な場合は上流と下流のバリューチェーンにおいて、優先地域に関する基準を満たす資産および/または活動がある地域を開示する。

推奨される開示事項

A(i) 直接操業における自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を特定し、評価し、優先順位付けするための組織のプロセスを説明する。

A(ii) 上流と下流のバリューチェーンにおける自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を特定し、評価し、優先順位付けするための組織のプロセスを説明する。

B. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を管理するための組織のプロセスを説明する。

C. 自然関連リスクの特定、評価、管理のプロセスが、組織全体のリスク管理にどのように組み込まれているかについて説明する。

推奨される開示事項

A. 組織が戦略およびリスク管理プロセスに沿って、マテリアルな自然関連リスクと機会を評価し、管理するために使用している測定指標を開示する。

B. 自然に対する依存とインパクトを評価し、管理するために組織が使用している測定指標を開示する。

C. 組織が自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を管理するために使用しているターゲットと目標、それらと照合した組織のパフォーマンスを記載する。



FWF CDPの整合性 – 企業向け質問書

ゼロ汚染	持続可能な取水	自然の保護	WASHへのアクセス	洪水や干ばつに対するレジリエンス
<p>廃水放出による水生環境、他の水利用者、または機能への悪影響はなく、水生環境の改善のために拡散汚染の管理が行われていること。</p>	<p>水の人権、環境、コミュニティ、将来世代のニーズを損なうことなく、水文学的な持続可能限界内の取水と利用。</p>	<p>生態系と景観、そのサービスは保護され、持続的に管理され、自然に基づく再生可能な解決策が優先されている。</p>	<p>生態系と景観、そのサービスは保護され、持続的に管理され、自然に基づく再生可能な解決策が優先されている。</p>	<p>水、気候、紛争リスクを軽減するための効果的な計画、政策、ガバナンス、投資が整っており、すべての人に対して法令遵守と安全な水権が保障されている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 水質の監視と測定 • 放流水の処理 • 水への排水量(汚染物質質量) • 有害物質—認識 • 有害物質—収益に占める割合 • 汚染物質管理手順—存在 • 汚染物質管理手順—詳細 • 水質汚染目標—存在 • 水質汚染目標—詳細 	<ul style="list-style-type: none"> • 水の取水および消費の監視と測定 • 取水量と消費量 • 水ストレス地域からの取水量 • 取水効率 • 取水および消費目標の設定 - 存在状況 • 取水および消費目標の詳細 	<ul style="list-style-type: none"> • リスクへの対応としての生態系保護 • 流域および生息地の修復と生態系保存目標の設定 - 存在状況 • 流域および生息地の修復と生態系保存目標の詳細 	<ul style="list-style-type: none"> • すべての労働者に対するWASHサービスの提供の監視と測定 • WASHサービスに関する企業目標の設定 	<ul style="list-style-type: none"> • 直接操業およびサプライチェーンのリスク評価 • 事業に実質的な財務影響を与えるリスクの特定とその対応 • 水に関する方針 • 取締役会レベルの監督と能力 • 最高経営層のインセンティブ • サプライチェーンの関与および必要条件 (requirements)



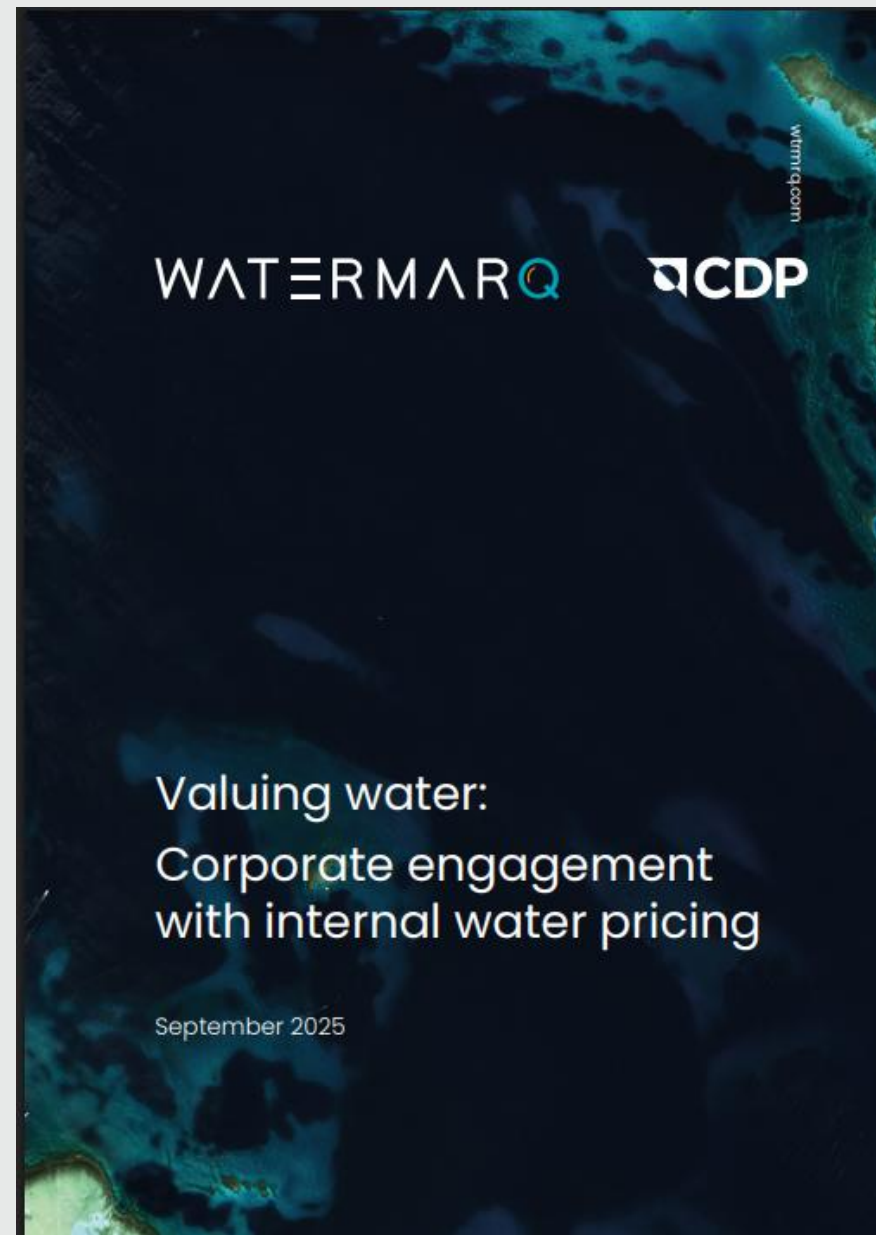
CDP出版物

- 10以上のグローバル水報告書とその他いくつかの影響力のある出版物を作成しています。
- これらは最先端の水データを利用して、重要なトピック、トレンド、および議論に関するCDPの声を強化しています。
- これらの出版物は幅広い範囲に届けられ、企業、金融機関、政策立案者、市民社会と連携しています。



インターナルウォーター プライシングの導入状況

- 水は企業価値とレジリエンスの中核的要素
内部水価格の導入企業はまだ少数(全体の5%)
- 主な活用目的は「効率化・投資判断・戦略立案」
- 多くは自社操業に限定、サプライチェーンへの展開は課題
使用範囲の83%が自社直接操業のみ
- 価格設定手法は均一・静的が主流。食品・農業分野が例外



2025年9月出版

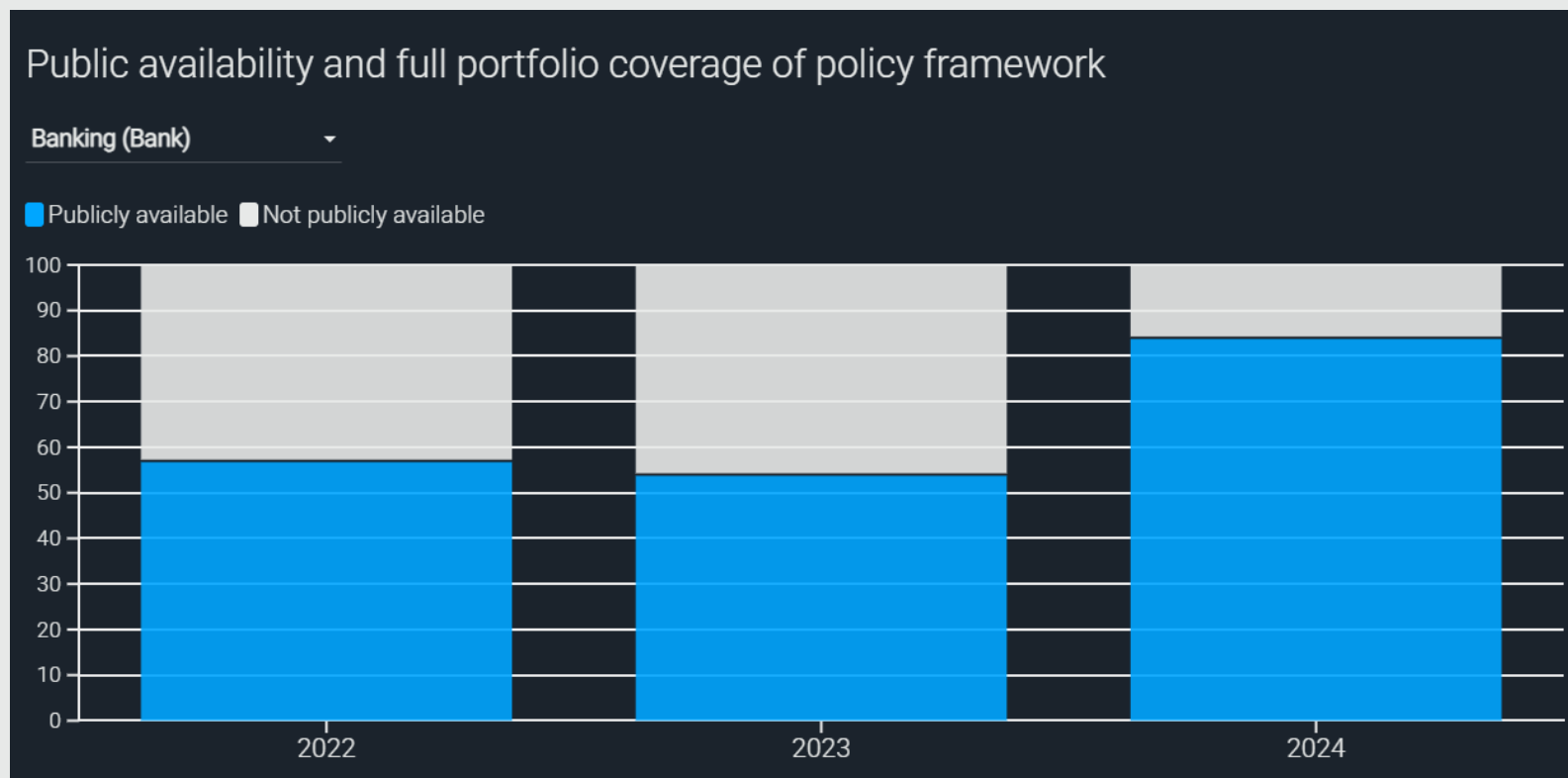
詳細プレスリリース(CDPホームページ)



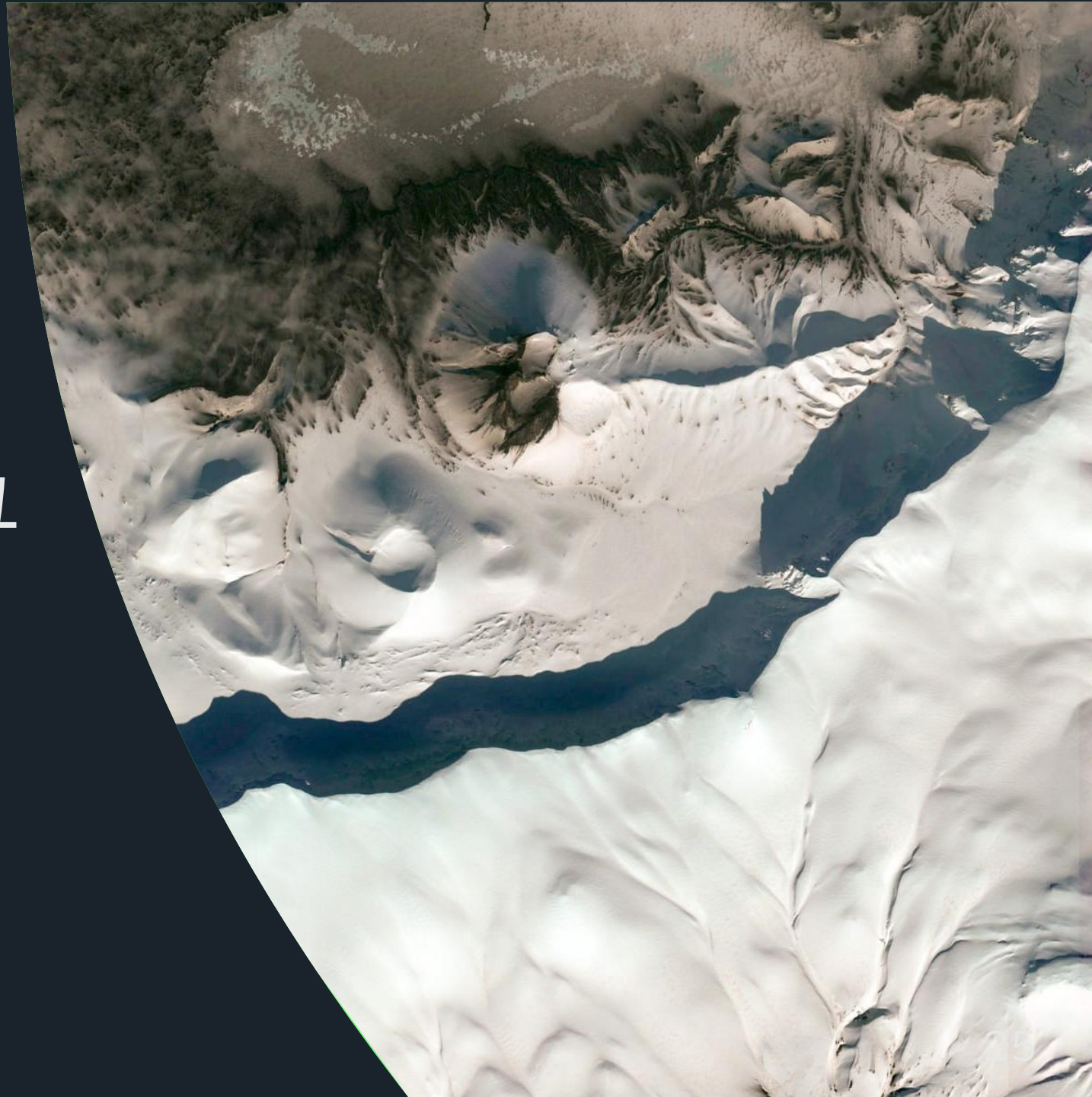
金融セクター回答分析プラットフォーム

Financial Sector Water Action Platform

インタラクティブに金融関連データを閲覧可能



3. 今後のCDP水セキュリティ質問書の方角性



排水開示の高度化と 水汚染物質の管理

排水

- 排水処理について新たに要求される内容:
- 規制遵守か、それ以上の対応か
- GRI 303との整合性強化

水汚染物質

- 水汚染物質管理の質問が具体化
新たなポイント:
 - 管理「結果」をどう測定しているか
 - 汚染物質を特定・分類していない場合は理由説明必須
- リスク管理プロセスとの連動



水目標は“科学的根拠”を前提に ネイチャーSBTsとの関連性強化

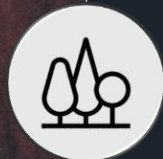
- 2026年から報告可能:
 - ネイチャーSBTs Step 1(分析・評価)の実施有無
 - 淡水目標設定(ネイチャーSBTs Step 3)
 - アカウンタビリティ・アクセラレーターによる認定
- 水量／水質の両面が対象

ステップ3 ガイダンス
淡水(v1.1)・土地(v1.0)の
日本語訳 公開済み



2026年サイクルの主な変更点

森林・生態系



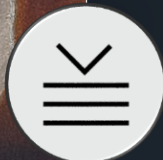
- ・ カカオ、コーヒー、天然ゴムをスコアリング対象となるコモディティに追加
- ・ 森林減少なし・転換なし目標に関する報告要件の変更

プラスチック



- ・ すべての企業がコーポレート完全版質問書に回答する際、プラスチック開示にオプトイン可能
- ・ エレン・マッカーサー財団の「グローバル・コミットメント」との完全整合 に向け、新規および改訂質問を導入中

適応とレジリエンス



- ・ 既存質問が更新され、企業が適応・レジリエンスをリスク／機会評価、ガバナンス、戦略、財務計画、ステークホルダーエンゲージメントの各領域でどのように扱っているかを開示できるようになりました。

海洋



- ・ 開示枠組みを海洋領域に拡大
- ・ 全回答企業がオプトイン可能(優先度の高いセクターは報告が強く推奨される)

SME



- ・ フォレストおよび水セキュリティの対象範囲を拡大
- ・ SME A スコアの導入



CDP関連イベント

【ネイチャーSBTsの最新動向と目標設定の「加速化」手法】

本セミナーでは、CDP認定ソリューションプロバイダー(ASP)の八千代エンジニアリング主催で、ネイチャーSBTsの最新情報をお伝えします。CDPからは、TNFDなど自然関連開示を巡るグローバルな最新動向や、企業の行動を後押しするキャンペーン「Step up for nature」、ネイチャーSBTsアプローチのCDP2026年質問書への整合状況について解説します。

- 日時: 2026年3月4日(水)14:00~15:15
- 主催: 八千代エンジニアリング株式会社
- 開催方法: オンライン(Zoom)



[詳細・申込](#)





CDP Worldwide-Japan
東京都千代田区丸の内2-5-1 丸の内二丁目ビル7階



<https://cdp.net> (CDP ウェブサイト)



CDPの質問書や回答手続きなど一般的なお問い合わせは
ヘルプセンターへご連絡ください